

ぎふ感染症かわら版

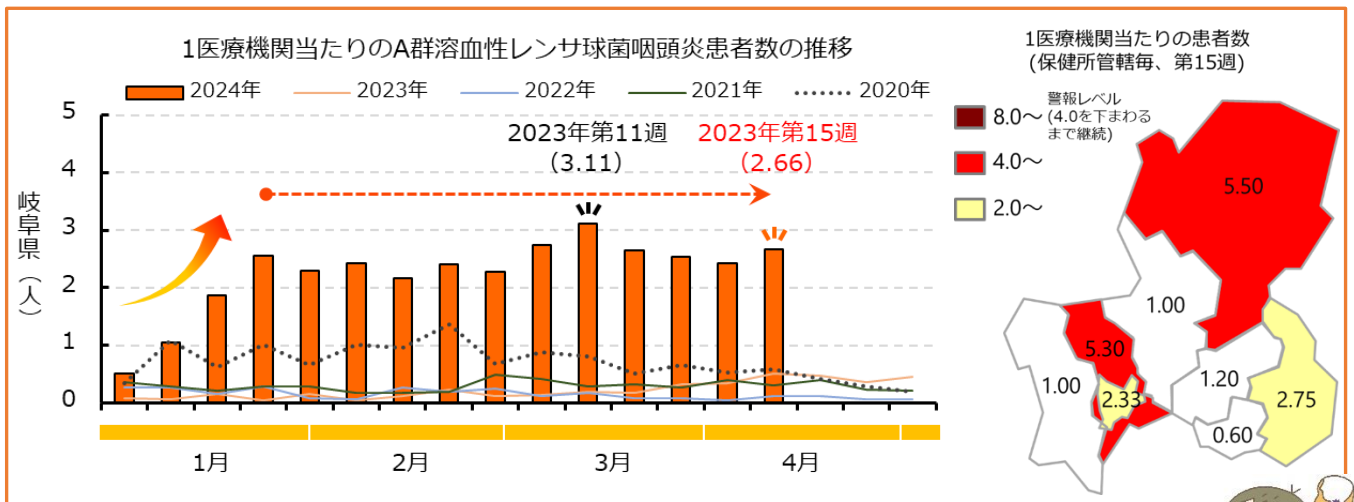
令和6年4月22日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行が続いています！

本年1月下旬から1医療機関当たりの患者報告数が高い値で推移しており、第11週(3/11～3/17)には1999年の調査開始以降で最高値(3.11人)を記録しました。直近の第15週(4/8～4/14)での報告数も2.66人と高く、今後しばらく流行が続く可能性があります。マスクの着用や咳エチケット※、手洗いなど、日常での感染予防をお願いします。

※咳エチケットは、感染症を他人に感染させないために、個人が咳・くしゃみをする際に、マスクやティッシュ・ハンカチ等を使って、口や鼻をおさえることです。



どんな病気？

A群溶血性レンサ球菌（溶連菌^{ようれんきん}とも呼ばれます。）の感染により、急な発熱とのどの痛みや腫れを起こし、しばしばおう吐を伴います。まれに重症化し、のどや舌、全身に発赤が広がる「猩紅熱（しょうこうねつ）」に移行することがあります。その他にも、皮膚の炎症や中耳炎など、さまざまな症状を引き起こすことがあります。

治療には抗生物質が有効ですが、合併症を防ぐため、症状が改善しても主治医に指示された期間、内服を続けることが大切です。



どう感染するの？ 予防方法は？

咳やくしゃみのしぶきによる飛沫感染や、手指を介した接触感染が主な感染経路です。そのため、予防には感染者との濃厚接触を避けることが重要であり、特に家族が感染した時などは、密接な接触は控えましょう。また、こまめな手洗いも予防に有効とされています。

のどに痛みがある場合は、早めに医療機関を受診しましょう。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

